

〈資料〉

ウェブデザイン教育の実践
—倉吉市教育委員会のホームページ診断を題材に—

藤 本 直 子

Naoko FUJIMOTO : A Practice of Web Design Education
—on the Topic of the Kurayoshi City Board of Education Web Site Diagnosis—

鳥取短期大学研究紀要 第69号 抜刷

2014年6月

(資料)

ウェブデザイン教育の実践 —倉吉市教育委員会のホームページ診断を題材に—

藤 本 直 子

Naoko FUJIMOTO : A Practice of Web Design Education

—on the Topic of the Kurayoshi City Board of Education Web Site Diagnosis—

鳥取短期大学生活学科情報・経営専攻では、ウェブデザイン教育をカリキュラムに取り入れている。平成 24 年度には、ウェブデザイン教育の一環として、学生による倉吉市教育委員会ホームページの診断を行った。このような実際に運用されているウェブサイトを題材とした実践的な取り組みの経験は、学生にとって有益であり、今後のカリキュラムに取り入れていきたいものであった。

キーワード：ウェブデザイン ウェブデザイン教育 ウェブサイト診断

1. はじめに

鳥取短期大学（以下、本学）生活学科情報・経営専攻（以下、本専攻）では、平成 14 年度から情報処理系科目群にシステム・エンジニア系とメディア・クリエイター系の 2 つの柱を設け、さらに平成 16 年度入学生からウェブデザイン実務士資格¹⁾を導入し、ウェブデザイン教育を行ってきた。本稿は、平成 24 年に取り組んだ倉吉市教育委員会のホームページ診断を題材として、本専攻におけるウェブデザイン教育のあり方について考察するものである。

2. 情報・経営専攻におけるウェブデザイン教育

(1) ウェブデザイン系科目の教育課程

本専攻におけるウェブデザイン実務士関連科目は、表 1 の通りである²⁾。

平成 26 年 4 月現在、ウェブデザイン実務士資格取得のためには、必修科目計 6 単位、選択必修科目計 4 単位以上、選択科目計 10 単位以上、合計 20 単位以上の取得が必要である。

表 1 ウェブデザイン実務士関連科目

科目名	科目区分	単位数	開講時期			
			一年次		二年次	
			前期	後期	前期	後期
ウェブデザイン I	必修	2	●			
ウェブデザイン II	必修	2		●		
ウェブデザイン演習	必修	2			●	
デザイン論	選択必修	2		●		
ウェブプログラミング演習	選択必修	2				●
マルチメディア演習	選択必修	2				●
情報処理総論	選択	2	●			
情報処理実務	選択	2	●			
データベース	選択	2				●
ネットワークの基礎	選択	2	●			
情報数理	選択	2	●			
基礎数学	選択	2		●		
プログラミング	選択	2			●	●
コンピュータグラフィックス	選択	2				●

これらの科目のうち、純粋にウェブデザイン教育を目的としているものは、必修科目の「ウェブデザインⅠ」、「ウェブデザインⅡ」、「ウェブデザイン演習」である。

ウェブデザイン実務士必修科目のうち、「ウェブデザインⅠ」および「ウェブデザインⅡ」は本専攻の卒業必修科目に位置付けられている。「ウェブデザイン演習」は本専攻の選択科目となるが、例年履修者は多く、90%以上の学生が履修する。

(2) ウェブデザイン系科目の到達目標

前述のウェブデザイン系科目の概要と到達目標は以下の通りとなる³⁾。

「ウェブデザインⅠ」はインターネットの総合的な理解から、ウェブサイトの規格やコンテンツの作成・運用方法、運用における著作権問題などについて学習するものである。インターネットの仕組み、ウェブサイトの作成・運用方法、著作権問題などについて理解できることと、簡単なウェブページが作成できることを到達目標としている。「ウェブデザインⅡ」は「ウェブデザインⅠ」の応用科目として、HTML 言語のタグ、簡単な CSS、動的コンテンツ作成などについて学習するものである。到達目標は、「ウェブデザインⅠ」で身につけた知識を元に、HTML 言語と簡単な CSS が理解できることと、それらの技術を用いて実際にウェブページを作成することである。「ウェブデザイン演習」は、HTML、CSS などを用いて各自ウェブコンテンツを作成し、ウェブ上で公開するものである。「ウェブデザインⅠ」および「Ⅱ」で学んだ内容の集大成として具体的なウェブサイトの作品制作、ウェブ上での公開を到達目標としている。

3. 特別研究とウェブデザイン

前章で述べた「ウェブデザインⅠ」、「ウェブデザインⅡ」および「ウェブデザイン演習」は、前述のウェブデザイン実務士資格の教育目標である「情報

リテラシーの習得を前提に、インターネット利用技術に関する一定の専門的知識と技能を有し、HTML などの限られた技術と表現力を培い、ウェブページの制作や発信する情報の収集、時には他デザイナーなどへの外注管理をするコンテンツ・エディター（ウェブページ編集者）やウェブページ・プロデューサーの役割を担うスペシャリストの育成に主眼を置く。」⁴⁾に基づき、主に技術面の習得を目標としている。

学生は、1年次前期に「ウェブデザインⅠ」、後期に「ウェブデザインⅡ」を履修する。そして、2年次前期に「ウェブデザイン演習」と「特別研究」を履修する。「特別研究」は、一般的にいうゼミナール教育のことである。この科目は2年次通年科目（必修科目）として設置されている。この科目の狙いは、「問題発見・解決能力及び表現能力」の獲得であり、他の履修科目で培われた知識や技能を高度化・専門化するための基幹科目としてカリキュラム上に位置付けられている。つまり、1年次に修得した知識や技能を、ゼミナール教育（以下、ゼミ）を用いてレベルアップさせることがその主な目的である。

2年次の4月、学生は本専攻所属の6名の専任教員のいずれかのゼミに所属する。各指導教員はそれぞれの専門分野を活かしながら、少人数制の教育を行っている。筆者のゼミでは、主にウェブデザインをテーマとして学生に研究を課している。表2に筆者のゼミにおける平成22年度から25年度までの過去の学生の研究テーマを示す。

筆者は、ウェブデザインにおいて必要なのは、単に技術だけではなく、情報発信する側と受け取る側の双方の視点から、正しい情報伝達が行われるようにウェブサイトを作成することであると考え、そこで、「特別研究」で筆者のゼミに所属する学生には、単に見栄えが良いだけでなく、ユーザビリティ、アクセシビリティ、心理効果などを考慮したウェブサイト作成を考えさせている。そのため、学生の研究テーマもナビゲーションやレイアウトの視点からユーザビリティを考慮したり、色の心理効果につい

て考察したり、障がい者や子どもを対象として配慮あるウェブサイトの作成をテーマとしたものが多い。

表2 特別研究テーマ一覧 (平成22~25年度)

平成22年度	Flashを用いたインタラクティブなWebサイト作成
	ウェブデザインの配色が与える印象
	閲覧者に効果的な配色のルーツについて
	Firefoxのアドオンについて
	ユーザビリティを考えたウェブページ
	高齢者に配慮したWEBページの作成
	PHPのウェブページ作成
	ホームページの見やすい配色について
平成23年度	視覚障害者が利用しやすいサイト
	配色～ファッションブランドサイトの対比～
	インターネットの脅威
	インターネットを利用している日本の若者の現状
	Webにおけるユーザビリティとアクセシビリティ
	効果的なウェブナビゲーションについて
	電子書籍と著作権
平成24年度	見やすいWebのデザイン
	快適なウェブサイトにするためのレイアウト
	ウェブページのレイアウトとナビゲーションについて
	色のイメージと効果
	Webユーザビリティとアクセシビリティ
	ウェブサイトの色彩効果と印象
平成25年度	インターネットの現状
	個人情報とインターネットセキュリティ
	見やすい配色・色の効果
	スマートフォン用WEBサイトのレイアウト
ウェブページ色の印象と考察	
色覚を意識したウェブサイト	

4. 倉吉市教育委員会のホームページ診断⁵⁾

(1) ホームページ診断に至るまでの経緯

本学では、各学科専攻において倉吉市との連携事業が各種行われている。

しかしながら、本専攻では学生が主として関わる連携事業が行われていなかった。そのため、平成24年に倉吉市から「鳥取短期大学と倉吉市教育委員会との連携協力に関する協定書」⁶⁾第2条【連携協力事項】第3項「学校教育及び社会教育における諸課題の対応に関すること」に基づき、学生による倉吉市教育委員会のホームページ診断の提案がなされた。

倉吉市教育委員会のページを含む倉吉市のホームページは図1に示すものである。教育委員会のページは独立して存在するのではなく、倉吉市のホームページの一部として教育委員会のページが存在する。つまり、倉吉市教育委員会のホームページ診断とは、倉吉市のホームページの診断であるとも言える。また、提案では本専攻の「基礎ゼミ」、「ウェブデザイン演習」あるいは「特別研究」のゼミ活動の一環として学生が診断を行い、その結果をもとに教育委員会事務局と協議を行うものとされていた。

この提案を受けて、本専攻ではまずこの事業への学生のかかわり方を検討した。ウェブデザインに関する科目は、1年次から開講されているが、ホームページの診断となると、「単純に作成できる」以上



図1 倉吉市ホームページ⁷⁾

の知識と技術を必要とする。そこで、単に授業を受けているだけではなく、研究テーマとして前述のように情報を発信する立場と受け取る立場の両方の立場からのウェブデザインについて、意欲をもって研究に取り組んでいる筆者のゼミに所属する学生が診断することとした。

まず、平成24年5月に、倉吉市教育委員会の担当者との打ち合わせを行った。今回の診断では、特に同年3月に行われた倉吉市のホームページリニューアルの際、改善項目となった「情報検索」と「デザイン」などについて、学生からの意見を求めたいとのことであった。

(2) 診断方法

5月に行った教育委員会担当者との打ち合わせの際、今回の診断では特に、「倉吉市教育委員会とは何かが市民に分かるか」、「市民がほしい情報が掲載されているか」、「他市と比べて情報提供の状況はどうか」、「倉吉市教育委員会のホームページはどうあるべきか」などについて学生の率直な意見を求めたい旨が伝えられた。そこで、診断基準を数値化するような手法ではなく、学生が各観点を設定し、包括的に診断を行う形をとることとした。各観点は、学生個人の研究テーマに沿うものを設定することとした。平成24年度のゼミ生の研究テーマは表2に挙げたとおりである。今回のように、実際に運用されているホームページを学生が診断することは初めての試みであること、また、学生個人の研究と並行して行うことから、表2に挙げた各学生の研究テーマのうち、類似テーマの2人を一組とすることを原則として診断作業を行うこととした。その結果、「ナビゲーションとレイアウト」、「色彩効果」、「アクセシビリティ」、「子どもを対象としたユーザビリティ」の4つを主な視点とした。

診断の前提および各自の研究のため、学生たちはまず研究テーマに即した文献調査やインターネット検索を行い、知識を得た。その後、各自の得た知識と平成24年3月に行われた倉吉市のホームページ

リニューアル時の方針を元に、上記の視点でホームページの診断を行った。

(3) 学生による診断例

以下に、学生による診断の流れを示す。

「ナビゲーションとレイアウト」の観点から診断を行った学生は、まず一般的なウェブサイトで利用されているレイアウトパターンについて調査を行った。個人の研究としてはその後、各レイアウトパターンを実装したサイトを作成し、検証を行う予定のものであったが、倉吉市教育委員会のホームページの診断については、視覚的レイアウトと情報の階層化に着目し、現状の問題点を指摘した。

例えば、視覚的レイアウトについては、「すべてのページが同じレイアウトで構成されているため見やすい反面、子ページを開いても左右のナビゲーションが表示されたままになっているため、メイン情報のスペースが狭い。」という指摘が、情報の階層化については、「倉吉市のトップページから教育委員会のページへのアクセスの仕方が分かりづらく、アクセスに手間取ってしまった。これは、情報の階層化が曖昧なためである。」といった指摘がなされた。

次に改善策として、「1ページの情報の表示量を増やすためナビゲーションを減らし、教育委員会へのリンクをトップページの分かりやすい位置に大きなバナーなどとして表示するとよい。」といった提案がなされた。

このように学生たちは、まず個人の研究テーマに沿った基礎的調査を行い、それをもとに倉吉市教育委員会のホームページを診断し、改善策を提案するという手順を行った。

(4) 報告・懇親会

平成24年12月に本学において、ホームページ診断にかかわる報告・懇親会が開催された(図2, 3)。倉吉市から教育長はじめ11名、本専攻から野津和功教授、筆者およびゼミ生7名が出席した。特に、



図2 報告・懇親会の様子1



図3 報告・懇親会の様子2

倉吉市からは実際にホームページ作成の担当者にも出席していただいた。

これまでの調査・診断をふまえ、学生からは、まずアクセスに関して、トップページから教育委員会のページまでのアクセスのわかりづらさが指摘され、ダイレクトリンクか2~3クリックで到達できるほうがよいとの提案があった。また、左右のカラムの情報の厳選、多言語に対応したページ作成、読み上げ・拡大機能の搭載、子供を対象とした情報にはルビを振ったほうが良いなどといった情報を発信する側と情報を必要とする側の双方の立場に立った指摘と改善点の提案がなされた。

(5) 考察

今回の診断にかかわった学生は特別研究のテーマにウェブデザインを選んだ学生であり、本専攻の学生の中でも特にウェブデザインに興味を持った学生

であった。しかしながら、知識や取り組みの姿勢に個人差があり、教員による助言や導きの必要があった。

また、学生にとって高いハードルとなったのが報告・懇親会の開催であった。学生の立場で大人に対して意見を述べることに抵抗を感じる学生がほとんどであった。

しかしながら、実際に運営されているウェブサイトを対象として診断を行い、かつ、意見を述べるという実践的な取り組みは彼らにとって通常の授業では経験できないものであった。また、色彩効果をテーマとしていた学生は、報告・懇親会での質問を受け、研究内容に視覚障がい者を対象とした配色に関する研究を取り入れた。このように研究の幅が広がった学生もおり、論文執筆においても有益な経験であったようだ。

ただし、平成26年3月時点で実際に倉吉市のホームページの改善はなされていないようである。

5. おわりに

本専攻の通常の授業において、「ウェブデザイン演習」でウェブサイトを作成したり、あるいは「特別研究」で調べて得た知識を元にウェブサイトを作成することはあるが、実際にウェブサイトを経営・管理することは現段階では取り入れていない。今回の診断では、実際に運用されているホームページを対象にしており、実践的な経験を学生に積ませることができた。今後も、本専攻のウェブデザイン教育において、例えば、実際にウェブサイトを作成・運営するといった実践的な取り組みを取り入れていきたい。それによって、学生の興味・関心も高まると考えている。

注

- 1) 一般財団法人 全国大学実務教育協会認定による
- 2) 平成26年度鳥取短期大学生生活学科情報・経営

専攻教育課程表より抜粋

3) 平成 26 年度「ウェブデザインⅠ」, 「ウェブデザインⅡ」および「ウェブデザイン演習」各シラバスより抜粋

4) 一般財団法人 全国大学実務教育協会より
<http://www.jaucb.gr.jp/index.php>

5) 正確には「ウェブサイト」という呼称を使用すべきだが, 本稿では倉吉市教育委員会からの依頼文書の表題に従っている.

6) 倉吉市 HP (平成 26 年 3 月) より
<http://www.city.kurayoshi.lg.jp/>

7) 5) に同じ